

令和5年度 天王寺学館高等学校 学校評価

1 めざす学校像

主体的に生きるための総合的な力の育成をめざし、狭域通信制・総合学科の通学型通信制高校として独自の学校づくりを推進する。通信部・通学部を設置し、「学びやすく・通いやすい」をモットーに、通学部では習熟度に応じたクラス編成をし、学力や生徒の状況に応じた授業を行い、通信部では生徒の生活リズムや体調に応じた時間で授業を受けることができる工夫をしている。生活リズムの確立を目指し、学びとともに、本校の校訓である「自立・自尊・自助」をもとに卒業後の進路実現を目指している。

- ① 学習指導と生活指導を両軸として、心豊かで逞しく生きる人間の育成をめざす。
- ② 授業をはじめ、特別活動や学校行事を通じて、社会で活躍できる人材の育成をめざす。
- ③ 生徒一人一人の希望進路の実現をめざし、きめ細かな指導を推進する。
- ④ 落ち着いた雰囲気の中で授業が行われ、規律ある学校生活を実践する。
- ⑤ 学校説明会、ホームページ等を通じて、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解と高い評価を目指す。

2 基本方針

0 求める生徒像

- (1) 学習意欲のある生徒 (2) 向上心のある生徒 (3) 他者を思いやる生徒

1 目指す生徒像

- (1) 自立した学習者の育成 (2) 自律した人間性の育成

- 2 新型コロナウイルス感染症の位置づけの変化に伴い、文部科学省・大阪府庁等からの通知を基に、学校における感染対策を講じたうえで可能な教育活動を実施して行く。
- 3 全ての生徒の進路希望実現に向け、本校の特色を大切にし、特色ある取組みを進める。令和4年度（2022年度）から開始した、新しい教育課程の取り組みや、観点別評価を進め、3年間で学校全体としてどのような生徒を育てるのか共通理解を進め深めていく。
- 4 大学入試改革も見据えた授業改善の取組みを進める。
- 5 自立した学習者を育成するために重要な、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善・授業研究）に向け、新しくまた既に導入済みの ICT を活用した授業改善や学習指導の工夫を研究し可能な部分から取組を進める。
- 6 生徒募集の状況を踏まえ、一層の広報活動を教職員全員が共通理解を持ちながら進め、入学した生徒や保護者の進路・進学実績に対する満足度を高める工夫を進める。
- 7 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を高め、安心・安全な学校づくりを一層推進する。
- 8 カリキュラム・マネジメント（教育課程を軸とした学校教育の改善・充実）を学校全体で組織的に取り組んでいくことができるよう、全ての教職員が日々の授業等についても、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組み、各学年の生徒の実情等と指導内容を照らし合わせ、効果的な指導等の在り方や、授業の在り方等について校内研修等を通じて研究を重ねていく。
- 9 自己肯定感が低い生徒にも、小さな成功体験を積み重ね、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組みを進め、一人一人の生徒が入学時よりも学力を伸ばし、希望する進路実現を目指す。そのためにも、天王寺学館高等学校が大切にしてきた「血の通った教育の場」の実践を進める。

3 基本方針を受けた中期的目標

- 3 全ての生徒の進路希望実現と、学校全体としてどのような生徒を育てるのかを共通理解し「社会における自己実現」を促す
進路希望実現に向けた学年ごとの中期的目標
 - 1 年次「職業の理解と選択」
 - 2 年次「学校(学部)の理解と選択」
 - 3 年次「志望校と受験校の決定」
- 4 大学入試改革も見据えた授業改善の取組み
授業改善の中期的目標 教員が自分の授業について他からの評価を含めて自己省察する機会を設ける
- 5 ICT を活用した授業改善や学習指導の工夫
ICT を用いた授業についての中期的目標
 - (1) ICT の整備と利用
 - (2) 教員の ICT 利用授業の取り組みを深める
 - (3) 生徒の授業参加意欲の向上
- 6 生徒募集の状況を踏まえた広報活動の活性化 生徒や保護者の満足度を高める
中期目標 ・広報活動の活性化
・転出・退学者、休学者の減少
・生徒や保護者の満足度を高める
- 7 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を高めさせる
中期目標 生徒指導週間と遅刻指導の継続
- 8 各学年の生徒の実情等と指導内容を照らし合わせ共通理解を図る
中期目標 教育会議の継続と校内研修の実施。
- 9 小さな成功体験を積み重ね、教育課程全体の中で生徒自身に自分の立ち位置を意識させる
中期目標 ・コース変更を可能とする取り組みを継続する
・校内実施の外部模擬試験で当日欠席者の減少を目指す

4 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標と今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標と結果に対する自己評価																																																																				
<p>3.全ての生徒の進路希望実現 「社会における自己実現」を促す 進路希望実現への学年ごとの中期的目標 ア 1年次「職業の理解と選択」 イ 2年次「学校(学部)の理解と選択」 ウ 3年次「志望校と受験校の決定」</p>	<p>担任による懇談を重ね個に応じた進路指導の実施 ア ①4月/マイナビ適学適職診断(職を複数紹介) ②1月/[職業別]進路ガイダンス イ ①6月/[各分野理解]進路ガイダンス (2年通学部全員参加) ②7月/マイナビフェスタ(自由参加) ③1月/[受験]進路ガイダンス (2年通学部全員参加) ウ ①6月/[進路別対策]進路ガイダンス ②9月/(対象者)指定校推薦説明会 ③1月/共通テスト自己採点会</p>	<p>評価指標：①浪人を除く進路未決定者を減らす(20%以下) ②各学年の進路ガイダンスへの出席者数を増やす ①卒業生の進路決定状況 ・23(R5)年度 卒業生 246 大学 50%、専門学校 17%、短大 1%、就職 3% 浪人 12%、未定 16% ・22(R4)年度 卒業生 227 大学 58%、専門学校 16%、短大 3%、就職 2% 浪人 12%、未定 11% ・21(R3)年度 卒業生 262 大学 41%、専門学校 22%、短大 2%、就職 3% 浪人 10%、未定 22% ②進路ガイダンス 参加者数 / 学年総数 (%)</p> <table border="1" data-bbox="1054 572 1877 774"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年 6/16</td> <td></td> <td>107/285(37.5%)</td> <td>91/260(35.0%)</td> </tr> <tr> <td>12/6</td> <td>127/221(57.5%)</td> <td>125/320(48.1%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4年 6/14</td> <td></td> <td>101/263(38.4%)</td> <td>100/222(45.0%)</td> </tr> <tr> <td>1/18</td> <td>74/205(36.1%)</td> <td>115/305(37.7%)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>R4(2022)年度 3年 45.0% ⇒R5(2023)年度 3年 35.0% 自己評価：評価指標の①進路未決定者 20%以下はクリア、②の進路ガイダンス出席者増は1・2年でクリアしたが、3年は10%減。大学進学者はR4年度58%に比べR5年度50%に減少、進路未定で卒業した者はR4→R5で5%増。R5年度3年生の難関大学合格数は前年度とあまり変わらないが、3年全体ではR5年度は停滞傾向とも言える。</p>		1年	2年	3年	R5年 6/16		107/285(37.5%)	91/260(35.0%)	12/6	127/221(57.5%)	125/320(48.1%)		R4年 6/14		101/263(38.4%)	100/222(45.0%)	1/18	74/205(36.1%)	115/305(37.7%)																																																	
	1年	2年	3年																																																																			
R5年 6/16		107/285(37.5%)	91/260(35.0%)																																																																			
12/6	127/221(57.5%)	125/320(48.1%)																																																																				
R4年 6/14		101/263(38.4%)	100/222(45.0%)																																																																			
1/18	74/205(36.1%)	115/305(37.7%)																																																																				
<p>4.大学入試改革も見据えた授業改善の取組み 授業改善の中期的目標 教員が自分の授業について他からの評価を含めて自己省察する機会を設ける</p>	<p>①生徒向け授業アンケートと、教員向け学校自己評価アンケートを実施 授業について同じ項目を問う ②教員が授業について自己省察する機会として保護者の授業参観週間を設ける ①生徒向け授業アンケート(質問6項目) 4.私は授業で集中して先生の話聞き、学習や実習に取り組んでいる。 5.先生は授業の進度やレベルを生徒に合わせ、分かりやすく授業を進めている。 6.先生は毎時間、授業の目標やポイント、取り組み方を説明している。 7.先生は板書を工夫しプリントや機器を使って効果的に教材や課題を示している。 8.先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。 9.私は授業に興味・関心を持つことが出来たと感じている。 b)教員向け学校自己評価アンケート(20項目、うち[学習支援]4項目は生徒向けと同じ)</p>	<p>評価指標：①教員向け[学習支援]4項目を生徒にも問い、生徒の結果が教員の結果を上回る。 ②保護者の授業参観週間で参加者にアンケートを実施し自由記述を確認する 生徒アンケートと教員アンケートの結果比較</p> <table border="1" data-bbox="1054 1077 1946 1380"> <thead> <tr> <th></th> <th>質問項目番号</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">生徒向け</td> <td>R5(23)年度 1月</td> <td>4.4</td> <td>4.43</td> <td>4.45</td> <td>4.45</td> <td>4.19</td> <td>4.24</td> <td>4.36</td> </tr> <tr> <td>R5(23)年度 7月</td> <td>4.43</td> <td>4.4</td> <td>4.41</td> <td>4.39</td> <td>4.18</td> <td>4.23</td> <td>4.34</td> </tr> <tr> <td>R4(22)年度 1月</td> <td>4.35</td> <td>4.37</td> <td>4.37</td> <td>4.18</td> <td>4.2</td> <td>4.3</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td>R4(22)年度 7月</td> <td>4.34</td> <td>4.35</td> <td>4.35</td> <td>4.34</td> <td>4.13</td> <td>4.19</td> <td>4.28</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">教員向け</td> <td>質問項目番号</td> <td></td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5(2023)年 7月</td> <td></td> <td>4</td> <td>4.06</td> <td>4.03</td> <td>3.75</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>R4(2022)年 7月</td> <td></td> <td>3.29</td> <td>3.32</td> <td>3.39</td> <td>3.1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>左の質問に対する5択回答を「よく当てはまる：5/やや当てはまる：4/どちらとも言えない：3/あまり当てはまらない：2/まったく当てはまらない：1」のように点数化 自己評価：①の評価指標はクリア。4点台と生徒の評価は教員評価よりかなり高い。生徒アンケートは前・後期の最後の授業で実施。最低出席回数をクリアしている生徒は最終授業を休むことがあり、最終授業に出席しアンケートに回答している生徒は学習意欲が高く、回答結果は高くなる傾向がある。教員も生徒もR5年度をR4年度より高く評価している中、8「教員の授業改善」はR5年度評価で他の3項目より低い。生徒自身が9「自分の授業への取り組み姿勢」を前年度より少し低く評価していることから、教員が生徒に授業に興味・関心を持たせるさらなる取り組みを行うことで、これらの結果はさらに向上すると思われる。</p>		質問項目番号	4	5	6	7	8	9	平均	生徒向け	R5(23)年度 1月	4.4	4.43	4.45	4.45	4.19	4.24	4.36	R5(23)年度 7月	4.43	4.4	4.41	4.39	4.18	4.23	4.34	R4(22)年度 1月	4.35	4.37	4.37	4.18	4.2	4.3	4.3	R4(22)年度 7月	4.34	4.35	4.35	4.34	4.13	4.19	4.28	教員向け	質問項目番号		5	6	7	8			R5(2023)年 7月		4	4.06	4.03	3.75				R4(2022)年 7月		3.29	3.32	3.39	3.1		
	質問項目番号	4	5	6	7	8	9	平均																																																														
生徒向け	R5(23)年度 1月	4.4	4.43	4.45	4.45	4.19	4.24	4.36																																																														
	R5(23)年度 7月	4.43	4.4	4.41	4.39	4.18	4.23	4.34																																																														
	R4(22)年度 1月	4.35	4.37	4.37	4.18	4.2	4.3	4.3																																																														
	R4(22)年度 7月	4.34	4.35	4.35	4.34	4.13	4.19	4.28																																																														
教員向け	質問項目番号		5	6	7	8																																																																
	R5(2023)年 7月		4	4.06	4.03	3.75																																																																
	R4(2022)年 7月		3.29	3.32	3.39	3.1																																																																
<p>5.ICTを活用した授業改善や学習指導の工夫 ICTを用いた授業についての中期的目標 (1)ICTの整備と利用 (2)ICT利用授業の取り組みを深める (3)生徒の授業参加意欲の向上</p>	<p>(1)ICTの整備と利用 ①学校と家庭との連絡の電子化 ②全教室にモニター導入、タブレットの台数増 (2)ICT利用授業の取り組みを深める →Google Workspace各アプリ利用を広める (3)取り組み結果として生徒の授業への参加意欲向上を目指す</p>	<p>評価指標 (1)家庭からの欠席連絡の電子化の常態化(電話での欠席連絡を上回る) 保護者への連絡も電子化する。 (2)授業でのTVモニターの利用と教員のGoogle Workspace各アプリ利用50%超 (3)生徒の授業アンケートの[授業への取り組み]2項目の値が4.2を超える 取り組み内容と評価内容 (1)①欠席連絡の電子化(昨年度関係者委員会指摘)R4年6/9より実施、 3720件(電話欠席連絡396件で電話対応に忙殺される時間が減少、電話ではできない相談をメールでする保護者も) ②連絡の電子化: a)生徒へGoogleアカウントの発行、Google Classroomで教科担当者・担任が連絡 b)学校がBusiness LINE登録(4年前)、生徒と保護者に同時に配信 ③各教室にTVモニターを設置(R4.4/26)、共有iPadを30台から45台に</p>																																																																				

		<p>(2)ICT 利用に関する教員アンケート結果</p> <div data-bbox="1050 148 1869 474"> <p>1. 授業では毎回モニターを使っている</p> <p>授業でモニターを使っている「毎回」40%+「よく」23.3%</p> </div> <p>2. 教員の Google のアプリの使用について 質問項目 2. Gmail を使っている / 3. ドライブを使っている / 4. Classroom を使っている / 5. ドキュメントを使っている / 6. スプレッドシートを使っている / 7. チャットを使っている</p> <table border="1" data-bbox="1050 608 1680 831"> <thead> <tr> <th>質問項目</th> <th>2.</th> <th>3.</th> <th>4.</th> <th>5.</th> <th>6.</th> <th>7.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく使っている</td> <td>83.3</td> <td>36.7</td> <td>36.7</td> <td>10</td> <td>26.7</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>時々使っている</td> <td>6.7</td> <td>30</td> <td>16.7</td> <td>23.3</td> <td>16.7</td> <td>43.3</td> </tr> <tr> <td>何回か使ったことがある</td> <td>10</td> <td>16.7</td> <td>30</td> <td>33.3</td> <td>36.7</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>ほとんど使っていない</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>16.7</td> <td>13.3</td> <td>13.3</td> </tr> <tr> <td>まったく使っていない</td> <td>0</td> <td>6.7</td> <td>6.7</td> <td>16.7</td> <td>6.7</td> <td>13.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 生徒の授業アンケートの[授業への取り組み]2 項目</p> <table border="1" data-bbox="1050 875 1869 1068"> <thead> <tr> <th>生徒向け</th> <th>4. 私は授業で集中して先生の話を聞き、学習や実習に取り組んでいる。</th> <th>9. 私は授業に興味・関心を持つことが出来たと感じている。</th> <th>全体平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24年1月</td> <td>4.4</td> <td>4.24</td> <td>4.36</td> </tr> <tr> <td>23年7月</td> <td>4.43</td> <td>4.23</td> <td>4.34</td> </tr> <tr> <td>23年1月</td> <td>4.35</td> <td>4.3</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td>22年7月</td> <td>4.34</td> <td>4.19</td> <td>4.28</td> </tr> </tbody> </table> <p>自己評価：職員間連絡で使うので Gmail を使っている教員は 9 割、教室のモニターを使って授業をしているのは 6 割強、生徒への連絡で Classroom を使っているのは 5 割強であった。モニターについては全教室導入初年度としては適当と言えるが、Classroom についてはコロナ禍で導入したので数年経っており、結果は少し低いように思われる。生徒の授業アンケートの[授業への取り組み]2 項目の値が 4.2 を超えるという指標は 2 項目ともクリアした。ただこの 2 項目は他の 4 項目が R4(22)年度から R5(23)年度で増加しているのと違い、ほぼ変化はない。結果の数値は高いものの、授業で生徒の知的好奇心をさらに呼び起こす仕掛けの検討が必要か。</p>	質問項目	2.	3.	4.	5.	6.	7.	よく使っている	83.3	36.7	36.7	10	26.7	20	時々使っている	6.7	30	16.7	23.3	16.7	43.3	何回か使ったことがある	10	16.7	30	33.3	36.7	10	ほとんど使っていない	0	10	10	16.7	13.3	13.3	まったく使っていない	0	6.7	6.7	16.7	6.7	13.3	生徒向け	4. 私は授業で集中して先生の話を聞き、学習や実習に取り組んでいる。	9. 私は授業に興味・関心を持つことが出来たと感じている。	全体平均	24年1月	4.4	4.24	4.36	23年7月	4.43	4.23	4.34	23年1月	4.35	4.3	4.3	22年7月	4.34	4.19	4.28
質問項目	2.	3.	4.	5.	6.	7.																																																										
よく使っている	83.3	36.7	36.7	10	26.7	20																																																										
時々使っている	6.7	30	16.7	23.3	16.7	43.3																																																										
何回か使ったことがある	10	16.7	30	33.3	36.7	10																																																										
ほとんど使っていない	0	10	10	16.7	13.3	13.3																																																										
まったく使っていない	0	6.7	6.7	16.7	6.7	13.3																																																										
生徒向け	4. 私は授業で集中して先生の話を聞き、学習や実習に取り組んでいる。	9. 私は授業に興味・関心を持つことが出来たと感じている。	全体平均																																																													
24年1月	4.4	4.24	4.36																																																													
23年7月	4.43	4.23	4.34																																																													
23年1月	4.35	4.3	4.3																																																													
22年7月	4.34	4.19	4.28																																																													

<p>6. 生徒募集の状況を踏まえた広報活動の活性化 生徒や保護者の満足度を高める 中期目標</p> <p>(1) 広報活動の活性化 (2) 転出・退学者、休学者の減少 (3) 生徒や保護者の満足度を高める</p>	<p>(1) 広報活動の活性化 個別相談や合同説明会で昨年度以上の対応により生徒募集を活性化</p> <p>(2) 転出・退学者、休学者の減少 保護者に学校へ来てもらうしきり作り ① 保護者懇談会 ② 三者面談 ③ 進路説明会 ④ 授業見学 休んでいる生徒・休学中の生徒へのケアを深める</p> <p>(3) 上記(1)(2)の取り組みの結果として、生徒や保護者の満足度を高める</p>	<p>(1) 広報活動の活性化 評価指標：中学からの直接入学者を増やす R5(2023)年度：本校主催説明会は 31 回、資料配布数 329、外部主催合同相談会参加 10 回、資料配布数は 342、個別相談会での資料配布数は 572、配布総数 1243 R4(2022)年度：本校主催説明会は 41 回、資料配布数 300、外部主催合同相談会参加 7 回、資料配布数は 307、個別相談会での資料配布数は 722、配布総数 1329 R3(2021)年度：本校主催説明会は 43 回、資料配布数 232、外部主催合同相談会参加 5 回、資料配布数は 169、個別相談会での資料配布数は 471、配布総数 872 中学から直接入学者数 R3(21)年度:130 R4(22)年度:148 R5(23)年度:18 自己評価：R5 年度本校主催説明会の開催数は減少も各回の参加者は増え合計で増加した。(資料配布数≒参加者数)。外部主催の説明会への参加回数・参加者数は増加。中学生の進路選択として通信制の認知度が高まりに加え、天王寺学館高校が通学型で進学実績ありと周知に取り組んだ結果、年度当初の中学からの直接入学者増につながった。</p> <p>.....</p> <p>(2) 転出・退学者、休学者の減少 評価指標：① 生徒総数単年度 800 以上、② 転退学者年間総数 40 以下、③ 休学者 40 以下 R3~R5 年度 休学者 退学者 転出者 転退学者計 生徒総数 4月 → 2月 R3(21) 43 8 9 17 106 増 (582 → 688) R4(22) 42 20 11 31 130 増 (625 → 755) R5(23) 43 17 9 26 96 増 (726 → 822) 自己評価：①は R5 年度達成、②はこの 3 年間達成、③はわずかに目標を達成できなかった。毎年休学を延長している者がいて、休学を繰り返していると復学の見込みは低くなるので、1 年以内の休学者が復学できるよう機会をみてアクセスし、一方で休学を繰り返すものには新しい一歩を踏み出すために退学も視野に入れるよう試みる。</p> <p>.....</p> <p>(3) 生徒や保護者の満足度を高める (保護者向けアンケートも 5~1 で点数化) 評価指標：保護者向けアンケート[学校満足度][進路指導]の結果が昨年度を上回る 保護者向けアンケート[学校満足度][進路指導]の項目</p> <table border="1" data-bbox="1050 2404 1942 2641"> <thead> <tr> <th>質問項目</th> <th>22 度後期</th> <th>23 度前期</th> <th>23 度後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 本校の教育活動は子どもの現状にあった対応ができています</td> <td>4.33</td> <td>4.52</td> <td>4.43</td> </tr> <tr> <td>2 本校の方針や教育活動に保護者として賛同している</td> <td>4.43</td> <td>4.54</td> <td>4.54</td> </tr> <tr> <td>3 本校に子どもを入学させて良かったと思う</td> <td>4.51</td> <td>4.64</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>6 進路説明会や担任指導助言が進路を考える上で役立っている</td> <td>3.87</td> <td>3.94</td> <td>4.11</td> </tr> <tr> <td>7 進路説明会・保護者懇談会で様々な進路情報が提供されている</td> <td>3.95</td> <td>4.02</td> <td>4.22</td> </tr> </tbody> </table> <p>自己評価：保護者の満足度はほとんどの項目で評価指標をクリア。質問 1「天王寺学館高等学校の教育活動は子どもの現状にあった対応ができています」が R5(2023)年度の前期から後期で減少。前期ではわが子が登校するようになったことで高評価に、後期では順調にいかないこともあり評価が微妙に下がるのではと思われる。</p>	質問項目	22 度後期	23 度前期	23 度後期	1 本校の教育活動は子どもの現状にあった対応ができています	4.33	4.52	4.43	2 本校の方針や教育活動に保護者として賛同している	4.43	4.54	4.54	3 本校に子どもを入学させて良かったと思う	4.51	4.64	4.7	6 進路説明会や担任指導助言が進路を考える上で役立っている	3.87	3.94	4.11	7 進路説明会・保護者懇談会で様々な進路情報が提供されている	3.95	4.02	4.22
質問項目	22 度後期	23 度前期	23 度後期																							
1 本校の教育活動は子どもの現状にあった対応ができています	4.33	4.52	4.43																							
2 本校の方針や教育活動に保護者として賛同している	4.43	4.54	4.54																							
3 本校に子どもを入学させて良かったと思う	4.51	4.64	4.7																							
6 進路説明会や担任指導助言が進路を考える上で役立っている	3.87	3.94	4.11																							
7 進路説明会・保護者懇談会で様々な進路情報が提供されている	3.95	4.02	4.22																							

<p>7.基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を高めさせる 中期目標 生徒指導週間と遅刻指導の継続と深化</p>	<p>(1)生徒指導週間：授業期間毎月1週間 校舎入口ギャラリで声掛け指導(年10回) ・頭髪・服装に対して段階を踏んだ指導 注意(イエローカード)→警告(レッドカード) (2)遅刻指導：時間厳守の意識を高める 10分以上授業遅刻→欠席/遅刻3回→欠席 (3)特別指導：校長訓戒+自宅謹慎</p>	<p>評価指標：生徒指導の注意喚起・警告・特別指導件数年間20件以下を目指す R4(22)年度前期(11件)注意喚起:9(頭髪・服装)/警告:2(頭髪)/特別指導:0 R4(22)年度後期(20件)注意喚起:12(頭髪・服装)/警告:1(頭髪)/説諭:1/特別指導:7 R5(23)年度前期(23件)注意喚起:13(頭髪・服装)/警告:0/説諭:4/特別指導:6件9人 R5(23)年度後期(17件)注意喚起:13(頭髪・服装)/警告:0/説諭:2名/特別指導:2件2人 自己評価：転入生の増加により生徒指導上の課題を抱えた生徒も一定数増加。本校が対象としてきた、登校しづらくとも進学を目指して真面目に学習しようとする生徒を守るためにも、根気よく生徒指導をしていく必要がある。R5年度は頭髪・服装指導に関して学年生活指導担当と学年教員が連携して指導、注意指導で留めることができた。R4年度後期からR5年度前期に特別指導が多く発生。R4後期7名とR5前期の4件5名は同学年(R5年度3年生)で全員がR4年度後期他校からの転学生。面接入試のシステムはコロナ禍以前と同じだが、これ以降は面接入試の前に必ず個別相談を受けてもらうよう推奨している。R6年度前半特別指導はない。</p>																																																																																																																																																																																																			
<p>8.教育会議と校内研修等の実施</p>	<p>教育会議：各学年の生徒の実情等を共有 校内研修：学校全体の課題を教員全員で共有</p>	<p>教育会議：5月・7月・11月・1月と年4回開催→新入生・編転入生の背景と課題を共有 校内研修：保護者対応の基本を共有 「学校と保護者のいい関係づくり」大阪大名誉教授 小野田正利氏 9/29(金) 自己評価：教育会議での課題を共有した生徒数 5月 新入生 26名 7月 1年1名 / 2年2名 / 3年2名 11月 1年2名 / 2年0名 / 3年3名 1月 1年1名 / 2年1名 / 3年 ×</p>																																																																																																																																																																																																			
<p>9.小さな成功体験を積み重ね、教育課程全体の中で生徒自身に自分の立ち位置を意識させる 中期目標 立ち位置確認にコース変更の取り組みを継続する</p>	<p>(1)年度途中のコース変更を継続する コース変更機会： 通信部⇔通学部⇔メディア、5日制⇔3日制など、希望でコース/レベルの変更を認めている ①6月(前期中間試験後)、 ②9月(後期開始前)、 ③3月(年度変わり前) <u>年度途中のコース変更者数 R3～R5</u></p>	<p>本校のコース変更について コースを変更する生徒は、生徒総数の多少と関係なく、6月は4%前後、10月は7%前後と安定している。年度途中での変更は受講科目の変更ではなく、学校生活を経験して自分の学びのペースを判断し授業を受けるスタイルの変更(午前のみ週3日⇔午後も授業週3日・5日、午後の授業の習熟度別クラスの変更)するものであり、教育課程全体の中で生徒自身に自分の立ち位置を意識させるのに役立っているものと思われる。 下の表の▼は週の授業日数を減らす・習熟度のレベルを易化する変更、▲は授業日数を増やす・習熟度のレベルを難化させる変更、⇔は授業日数・習熟度は変えずに理系と文系を変える変更を示す。年度途中に変更機会があるので自分の学びのペースを考え直すことができると思われる。次年度から年度途中のコース変更機会は授業料無償化の影響で9月の年1回となるが、これらの表から変更を希望する生徒は約1割程度になるのではと思われる。</p> <table border="1" data-bbox="751 1222 1915 1703"> <thead> <tr> <th colspan="5">2021 R3</th> <th colspan="5">2022 R4</th> <th colspan="5">2023 R5</th> </tr> <tr> <th>6月</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>Total</th> <th>6月</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>Total</th> <th>6月</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>Total</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>▼</td><td>7</td><td>3</td><td>11</td><td>21</td> <td>▼</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>9</td> <td>▼</td><td>2</td><td>14</td><td>4</td><td>20</td> </tr> <tr> <td>▲</td><td>3</td><td></td><td>3</td><td>6</td> <td>▲</td><td>3</td><td>4</td><td>1</td><td>8</td> <td>▲</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>8</td> </tr> <tr> <td>⇔</td><td></td><td></td><td></td><td>0</td> <td>⇔</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td> <td>⇔</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td> </tr> <tr> <td>Total</td><td>10</td><td>3</td><td>14</td><td>27</td> <td>Total</td><td>6</td><td>8</td><td>5</td><td>19</td> <td>Total</td><td>4</td><td>18</td><td>8</td><td>30</td> </tr> <tr> <td>学年全体に占める割合</td><td>0.08</td><td>0.01</td><td>0.06</td><td>0.05</td> <td>学年全体に占める割合</td><td>0.04</td><td>0.03</td><td>0.02</td><td>0.03</td> <td>学年全体に占める割合</td><td>0.02</td><td>0.06</td><td>0.03</td><td>0.04</td> </tr> <tr> <th>10月</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>Total</th> <th>10月</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>Total</th> <th>10月</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>Total</th> </tr> <tr> <td>▼</td><td>11</td><td>1</td><td>0</td><td>12</td> <td>▼</td><td>5</td><td>13</td><td>9</td><td>27</td> <td>▼</td><td>10</td><td>16</td><td>12</td><td>38</td> </tr> <tr> <td>▲</td><td>13</td><td>3</td><td>4</td><td>20</td> <td>▲</td><td>6</td><td>7</td><td>1</td><td>14</td> <td>▲</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>8</td> </tr> <tr> <td>⇔</td><td>4</td><td>2</td><td>1</td><td>7</td> <td>⇔</td><td>0</td><td>5</td><td>2</td><td>7</td> <td>⇔</td><td>0</td><td>6</td><td>1</td><td>7</td> </tr> <tr> <td>Total</td><td>28</td><td>6</td><td>5</td><td>39</td> <td>Total</td><td>11</td><td>25</td><td>12</td><td>48</td> <td>Total</td><td>13</td><td>24</td><td>16</td><td>53</td> </tr> <tr> <td>学年全体に占める割合</td><td>0.17</td><td>0.02</td><td>0.02</td><td>0.06</td> <td>学年全体に占める割合</td><td>0.06</td><td>0.09</td><td>0.05</td><td>0.07</td> <td>学年全体に占める割合</td><td>0.06</td><td>0.08</td><td>0.06</td><td>0.07</td> </tr> </tbody> </table> <p>自己評価：学年毎に見ると10月の変更者は6月の変更者に比べると、学年間の差が大きい。R3(2021)年度10月の1年生は総数166人に対し28名17%が変更を希望した。この学年は2年次に10月の2年生総数293人中25名9%、3年次も260人中16名6%が変更を希望するなど、このR5(2023)年度3年生は、入学時や2・3年次当初に決めたコースを年度途中で変更する生徒が多かったと言える。</p>	2021 R3					2022 R4					2023 R5					6月	1年	2年	3年	Total	6月	1年	2年	3年	Total	6月	1年	2年	3年	Total	▼	7	3	11	21	▼	2	3	4	9	▼	2	14	4	20	▲	3		3	6	▲	3	4	1	8	▲	2	2	4	8	⇔				0	⇔	1	1	0	2	⇔	0	2	0	2	Total	10	3	14	27	Total	6	8	5	19	Total	4	18	8	30	学年全体に占める割合	0.08	0.01	0.06	0.05	学年全体に占める割合	0.04	0.03	0.02	0.03	学年全体に占める割合	0.02	0.06	0.03	0.04	10月	1年	2年	3年	Total	10月	1年	2年	3年	Total	10月	1年	2年	3年	Total	▼	11	1	0	12	▼	5	13	9	27	▼	10	16	12	38	▲	13	3	4	20	▲	6	7	1	14	▲	3	2	3	8	⇔	4	2	1	7	⇔	0	5	2	7	⇔	0	6	1	7	Total	28	6	5	39	Total	11	25	12	48	Total	13	24	16	53	学年全体に占める割合	0.17	0.02	0.02	0.06	学年全体に占める割合	0.06	0.09	0.05	0.07	学年全体に占める割合	0.06	0.08	0.06	0.07
2021 R3					2022 R4					2023 R5																																																																																																																																																																																											
6月	1年	2年	3年	Total	6月	1年	2年	3年	Total	6月	1年	2年	3年	Total																																																																																																																																																																																							
▼	7	3	11	21	▼	2	3	4	9	▼	2	14	4	20																																																																																																																																																																																							
▲	3		3	6	▲	3	4	1	8	▲	2	2	4	8																																																																																																																																																																																							
⇔				0	⇔	1	1	0	2	⇔	0	2	0	2																																																																																																																																																																																							
Total	10	3	14	27	Total	6	8	5	19	Total	4	18	8	30																																																																																																																																																																																							
学年全体に占める割合	0.08	0.01	0.06	0.05	学年全体に占める割合	0.04	0.03	0.02	0.03	学年全体に占める割合	0.02	0.06	0.03	0.04																																																																																																																																																																																							
10月	1年	2年	3年	Total	10月	1年	2年	3年	Total	10月	1年	2年	3年	Total																																																																																																																																																																																							
▼	11	1	0	12	▼	5	13	9	27	▼	10	16	12	38																																																																																																																																																																																							
▲	13	3	4	20	▲	6	7	1	14	▲	3	2	3	8																																																																																																																																																																																							
⇔	4	2	1	7	⇔	0	5	2	7	⇔	0	6	1	7																																																																																																																																																																																							
Total	28	6	5	39	Total	11	25	12	48	Total	13	24	16	53																																																																																																																																																																																							
学年全体に占める割合	0.17	0.02	0.02	0.06	学年全体に占める割合	0.06	0.09	0.05	0.07	学年全体に占める割合	0.06	0.08	0.06	0.07																																																																																																																																																																																							
	<p>(2) 外部模擬試験の校内実施 進路希望実現に向け外部模試を校内で実施し 当日欠席者の減少を目指す</p>	<p>評価指標：希望者対象の模試において、85.0%以上の出席率を目指す。 希望者対象模試の出席率は 1年 2年 3年 R4年度 92.3% 95.2% 79.3% R5年度 91.0% 86.0% 83.8%</p> <p>自己評価：勉強したいという思いはあっても、テストに対する過敏な反応を示す生徒は少なくない、また本校で頑張ろうという気持ちでスタートしたが、エネルギー切れでペースダウンする生徒も少なくない。これまでは模試受験を希望した生徒でも当日欠席する者が、学年進行とともに増加していたが、R5年度は落ち着きを見せた。ただR4年度に比べてR5年度は1・2年で出席率が少し減少している。R5年度3年の出席率の増加は、9月以降の模試を全員受験から希望者受験に変更したからと思われる。</p>																																																																																																																																																																																																			

5 本年度の取組内容についての総括

<p>R5(2023)年度、3年生についてはやや停滞傾向が見られた。R5年度3年生の難関大学合格数は前年度とあまり変わらないが、学年全体の進路決定に停滞傾向が見られる。R4年度とR5年度の3年進路決定期の通学部と通信部の人数と学年全体に占める割合について比べてみた。</p>		
<p>R4(2022)年度とR5(2023)年度3年生の2月の通学部・通信部の学年全体に占める比率</p>	<p>R4(2022)年度 2/2 R5(2023)年度 2/1</p>	<p>通学部 45.3% 通信部 50.9% 36.5% 60.0%</p>
<p>R5年度の方がR4年度に比べ、2月期の通学部生は8.8%減、通信部は9.1%増となっている。R4年度とR5年度3年生の入学以降の年度別通学部人数を比較すると、入学時中学からの入学生の通学部率はともに50%を超え、むしろR5(2023)年度3年生の方が高い。本校は単位制のため進級という概念はないが修得単位数で所属学年が決まり、2年所属が多く3年所属が少なくなる傾向がある。また2年次は他校からの転入生が多く学年総数は倍近くになる上、本校では年度途中と末にコース変更ができ、どの年度も2年次は通学部率が大きく減少する。ただR4年度3年生に見られるように、3年次は通学部にかなり戻ることに対して、R5年度3年生は年度途中のコース変更者も多く、3年次にほとんど通学部へ戻らなかった。このことがR5年度3年生の大学進学率の減少と進路決定未定者の増加につながったものと思われる。この学年はコロナ禍後で2年次後半に多種多様な生徒が転入し、その中に例年はほとんどいない特別指導対象者が多く含まれた。また例年と違いその大部分が通学部であったので、真面目にコツコツと勉強する生徒がクラスの雰囲気嫌いを、通信部へコース変更したと思われる。</p>		
<p>転入生徒には必ず面接入試前に個別相談を推奨し、個別相談の中で本校は「今は登校できていないが、勉強したいと考えていて、将来は大学進学を考えている」生徒の背中を押したいと考えていると説明に努めたいと考えている。</p>		

6 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析							学校評価委員会からの意見 [令和6年8月実施分]	
生徒向け授業アンケート							生徒向け授業アンケートについて	
生徒向け	4、私は授業で集中して先生の話を聞き、学習や実習に取り組んでいる。	5、先生は授業の進度やレベルを生徒に合わせ、分かりやすく授業を進めている。	6、先生は毎時間、授業の目標やポイント、取り組み方を説明している。	7、先生は板書を工夫し、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を示している。	8、先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。	9、私は授業に興味・関心を持つことが出来たと感じている。	平均	<p>[意見]中学校の授業評価アンケートでは生徒評価は面白い(楽しい)教員が高く、授業力に比例しないことが課題となっている。強面を演じている教員は授業レベルが高くて、生徒の評価が中位になってしまう。授業評価は「皆がわかる授業＝かなりレベルを下げた授業＝深さが無い」という「知的な深さ」ではない評価も出てしまう。「面白い」ではなく「手応えのある授業」としての評価するようアクセスが必要か。その点で、本校のアンケートの質問項目は生徒自身の振り返りと教員の授業についてに分かれていて、決して授業の面白さを中心にしていないところが評価できる。</p> <p>授業アンケートの結果が高いことに対して一定理由があるにしても、それでも評価が高いことに違いはない。前年度比較で多少下がっても気にする必要はないのでは。</p> <p><u>保護者授業参観・教員の相互授業見学について</u></p> <p>[意見]生徒の授業評価に加えて教員間の授業見学も教員の授業に対するモチベーションアップにつながる。良い所をお互い盗んで良い授業を作っていくべきであるが、校内だけではマンネリ化することも考えられるので、授業公開も検討してはどうか。</p> <p>→[回答]次年度は保護者授業参観週間中に教員間の相互授業見学を実施する。教員の授業改善への意識向上に、教員間の相互授業見学に加えて、関係者委員会で提案のあった、他校教員への授業公開(具体的には地元中学校教員)も検討していきたい。</p> <p><u>その他について</u></p> <p>[質問]教育会議とは何か、カウンセラーは教育会議に参加しているのか、教員は合理的配慮については理解できているか</p> <p>→[回答]中学校からの入学の7割は不登校経験者で、配慮が必要であるので、本校教員は個々の生徒に対する合理的配慮の必要性を理解し対応している。カウンセラーの資格を持つ本校教員と学外からのカウンセラーが協力して対応しているが、今後は外部からのカウンセラーにも教育会議に参加を要請する。</p>
R6(2024)年1月	4.4	4.43	4.45	4.45	4.19	4.24	4.36	
R5(2023)年7月	4.43	4.4	4.41	4.39	4.18	4.23	4.34	
R5(2023)年1月	4.35	4.37	4.37	4.18	4.2	4.3	4.3	
R4(2022)年7月	4.34	4.35	4.35	4.34	4.13	4.19	4.28	
教員向け	R5(2023)年	4.00	4.06	4.03	3.75			
	R4(2022)年	3.29	3.32	3.39	3.1			
教員向けアンケート結果 8月実施								
カテゴリー	教員アンケート R4(2022)年～R6(2024)年			2022	2023	2024		
[教育目標]	1	本校では目指す学校像や基本方針に基づいて校務に取り組んでいる			3.39	4.31	4.38	
[教育目標]	2	生徒や保護者は、本校の教育活動について理解している			3.13	3.75	3.96	
[教育目標]	3	本校には多様な生徒が入学してくるが、個々の生徒に応じて対応している			3.45	4.09	4.38	
[教育目標]	4	本校では生徒のニーズに応じて選択授業を開講していて他の高校にない特色がある			3.55	4.25	4.46	
[生徒支援]	5	生徒の悩みや思いを受け止め、個々の生徒に合ったアドバイスをしている			3.45	4.09	4.38	
[生徒支援]	6	生徒が将来の職業や生き方を考えるような機会を設けている			3.03	3.97	4.04	
[生徒支援]	7	生徒や保護者に様々な機会を通して、適切な進路情報を提供している			3.23	4.16	4.19	
[生徒支援]	8	生徒が自立について学校生活の中で感じ学ぶ機会を提供している			2.81	3.81	3.65	
[生徒支援]	9	学校行事や特別活動に、生徒はいきいきと参加できている			3.16	4.16	4.08	
[生徒支援]	10	生徒は悩みについて、担任や養護教諭に相談できている			3	3.59	3.92	
[教育活動]	11	生徒についての情報を全員で共有し、協力して生徒に指導を行っている			3.23	3.91	4	
[教育活動]	12	暴力や暴言等いわゆる「いじめ行為」について全員で協力して対応する用意がある			3.23	3.81	4.08	
[教育活動]	13	地震や火災等の非常事態に対して、どのように対応するか全員で共有している			2.16	3.22	3.27	
[教育活動]	14	事務所の職員はいつも丁寧に生徒や転学希望者に対応している			3.97	4.84	4.73	
[教育活動]	15	本校にとって、卒業生と学校の繋がりを保つために同窓会という組織は必要である			2.74	3.09	3.04	
[教育活動]	16	本校にとって、保護者との意思疎通を図る上で、PTAという組織は必要である			2.29	2.69	2.85	
[学習支援]	17	進度やレベルを生徒の現状に合わせ、生徒状況を把握しながら授業を進めている			3.29	4	4.15	
[学習支援]	18	毎時間、授業の目標や大切なポイント、取り組み方を説明している			3.32	4.06	4.04	
[学習支援]	19	板書を工夫したり、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を生徒に示している			3.39	4.03	4.08	
[学習支援]	20	生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている			3.1	3.75	4.19	
<p>結果と分析 詳しい分析は「4.本年度の取組内容及び自己評価」も参照頂きたい。教員は「生徒が自立について学ぶ機会を提供している」や「生徒は行事や活動に生き生きと参加している」についてわずかに評価を下げた。教員向け学校自己評価アンケートは例年1回8月に実施するので、文化祭や進路ガイダンスなど上記2項目に大きく関係する年度後半の取り組みを反映できなかった可能性が考えられる。</p>								
保護者アンケート質問項目				22 結果	23 前期	23 後期		
1. 天王寺学館高等学校の教育活動は子どもの現状にあった対応ができている				4.33	4.52	4.43		
2. 天王寺学館高等学校の方針や教育活動に保護者として賛同している				4.43	4.54	4.54		
3. 天王寺学館高等学校に子どもを入学させて良かったと思う				4.51	4.64	4.7		
4. 子どものニーズに応じて選択授業が開講されていて、他の高校にない特色がある				4.51	4.53	4.57		
5. 子どもの悩みや思いを受け止め、適切にアドバイスしてくれる教員がいる				3.94	4.01	4.04		
6. 進路説明会の情報や担任の指導助言が進路を考える上で役立っているように思う				3.87	3.94	4.11		
7. 進路説明会や保護者懇談会を通じて、様々な進路情報が提供されている				3.95	4.02	4.22		
8. 豊かな心や自立心を促す指導が行われているように思う				3.9	4.07	4.03		
9. 学校行事や特別活動に、子どもはいきいきと参加している				3.6	3.73	3.88		
10. 担任や養護教諭にいろいろな悩みの相談ができているようだ				3.3	3.45	3.5		
11. どの教員も同じ姿勢で協力して指導に臨んでいる				3.63	3.85	3.88		
12. 天王寺学館高等学校では、いわゆる「いじめ行為」は見られない				4.14	4.2	4.35		
13. 非常事態への対応はしっかり行われていて、安心して子どもを送り出すことができる				4.12	4.13	4.28		
14. 事務所の職員はいつも丁寧に丁寧に対応してくれている				4.55	4.63	4.74		
15. 同窓会は卒業後も子どもは学校との繋がりが出来るので、作ってほしい組織だと思う				3.46	3.65	3.59		
16. PTAという組織があれば、保護者や先生との間で悩みなどの相談が出来る				2.92	2.89	2.93		
17. 先生は状況を把握し到達度の低い生徒への個別対応や進学に向けて指導をしている				3.61	3.66	3.79		
18. 以前に比べると、子どもの学習意欲が高まったように思える				3.64	3.98	3.95		
19. 先生は授業をわかりやすくするために、いろいろ工夫しているようだ				3.61	3.76	3.86		
20. 先生は授業について、子どもの意見や要望を取り入れてくれる				3.44	3.59	3.64		
回答数				183	231	94		
<p>結果と分析 前年度同様、保護者からは高い評価を頂いているが、自由記述では厳しい意見も頂いている。23年度後期の回答者が少なかった。保護者懇談会で帰られる前にアンケートに回答してもらっているが、回答をすべてデジタルにしたためペーパーがないので、アンケートがあることに気付かず帰宅された保護者が多かったようだ。今後ほとんど解答されなくてもペーパーのアンケートを配布してアンケートの存在をアピールしたい。</p>								